

## 短 報

## 横浜市保土ヶ谷区のカザグルマ群落について

A note on *Clematis patens* community in Hodogaya-ku, Yokohama

田中徳久

神奈川県立生命の星・地球博物館

Norihisa Tanaka

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

**Key Words** : *Clematis patens* community, red data plant

カザグルマ (*Clematis patens* Morreu et Dence.) は、林縁や湿地縁などに生える落葉性のつる植物で、国内では、本州、四国、九州北部に分布する。全国版レッドデータブック (我が国における保護上重要な植物種および植物群落に関する検討委員会種分科会編, 1989) では、危急種として位置づけられ、神奈川県版レッドデータブック (神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995) では、絶滅危惧種として報告されている。

神奈川県内のカザグルマの産地は、横浜市保土ヶ谷区と相模原市が知られるほか (神奈川県植物誌調査会編, 1988; 山口, 1997ほか)、松浦 (1958) に記録があり、かつては箱根方面にも分布していた。

カザグルマの群落については、石田ほか (1996) による詳しい報告があるほか、村上 (1986) がカザグルマ群落を報告している。田中 (1994, 1996) は、神奈川県内のレッドデータ植物あるいはそれに準ずる植物であるハコネコメツツジやカワラノギクの群落について、その現状を報告してきた。ここでは、それらの報告に続いて、横浜市保土ヶ谷区で記録されたカザグルマを含む群落について報告する。しかし、その目的は、カザグルマ群落に関する植物社会学的な研究という面よりも、カザグルマというレッドデータ植物が、どのような植物群落の構成種となっているかを明らかにすることにある。

調査地は、横浜市保土ヶ谷区川島町の段丘崖斜面である (標準地域メッシュ5339-14-65; 北緯35° 28' 03" 東経139° 34' 23")。神奈川県植物誌調査会編 (1988) には、保土ヶ谷区のカザグルマは、調査期間中に工事により消失したことが記録されているが、今回の調査地は、工事後再生したものか、消失した産地とは別の産地であるかは不明である。周辺はシラカシを中心とする段丘崖斜面林やアズマネザサ群落、遊歩道が整備された園地で、カザグルマは、林縁やつづら折れの遊歩道に挟まれた緑地に生育していた。調査はカザグルマの生育する2植分において、Braun-Blanquet (1964) ほかの植物社会学的手法により1995年5月18日に行った。

カザグルマ群落 *Clematis patens* community

**種組成と構造**: 草本第1層では、アズマネザサやヒメコウゾ、マユミなどの低木類を、カザグルマやミツバアケビ、キツタ、カナムグラ、オニドコロなどのつる植物が被っており、草本第2層には、ドクダミやヤブニンジン、スギナ、ツユクサなどが生育している。構成種の多くは、先駆性の高い陽樹や、マント群落の主要な構成要素となるつる植物である。

今回記録された植分では、草本第1層は高さ150cm、植被率80~90%、草本第2層は高さ20~25cm、植被率10~20%で、草本第2層は、草本第1層に被圧され、植被率も小さく、出現種も少ない。

**立地条件**: 今回の調査で記録された植分は、比較的最近において、人為的な攪乱を受けたと考えられる、林縁やつづら折れの遊歩道に挟まれた緑地に成立していた。カザグルマ本来の自然条件下での生育立地は湿生環境であるが、2次林の林縁やソデ群落などの人為影響下にも生育していることが指摘されている (石田ほか, 1996ほか)。今回記録された植分も、生育地の観察から、人為環境下に成立したものであった。

**植物社会学的な位置づけ**: わずか2植分の植生調査資料で、その植物社会学的な位置づけを議論することは困難であるが、関連する既発表資料として、石田ほか (1996) の兵庫県三田市のカザグルマ群落や村上 (1986) が埼玉県長瀨より報告したカザグルマ群落の資料、および関東地方から記録されているマント群落などと比較した。

石田ほか (1996) は、そこで報告しているカザグルマ群落とミヤコイバラウメモドキ群集との関連性を指摘しつつも、その位置づけを保留している。本報の資料と、石田ほか (1996) が報告している資料を比較すると、ミツバアケビやドクダミ、スギナなどの共通種を含む。しかし、調査地の植物相の相違に起因し、本報の資料では、

表 1. 横浜市保土ヶ谷区のカザグルマ群落群落表.

通し番号	1	2	Relevé reference number
調査番号	HO	HO	Original relevé number
	1	2	
調査年月日	1995	1995	Relevé date
	5	5	
	18	18	
調査面積 (m <sup>2</sup> )	9	8	Quadrat size
海拔高 (m)	38	36	Altitude
斜面方位	NE	NE	Aspect
斜面傾斜 (°)	20	30	Inclination
低木層の高さ (cm)	150	150	Height of herb layer 1
低木層の植被率 (%)	90	80	Cover of herb layer 1
草本層の高さ (cm)	25	20	Height of herb layer 2
草本層の植被率 (%)	10	20	Cover of herb layer 2
出現種数	8	11	Number of species
<hr/>			
<u>群落区分種</u>			<u>Differential species of community</u>
カザグルマ	H1	2・3 2・2	<i>Clematis patens</i>
<u>ノイバラクラスの種</u>			<u>Character species of Rosetea multiflorae</u>
アズマネザサ	H1	4・5 2・3	<i>Pleioblastus chino</i>
ミツバアケビ	H1	+・2 1・2	<i>Akebia trifoliata</i>
	H2	+・2 .	
<u>随伴種</u> <u>Companion species</u>			

出現 1 回の種 Additional species occurring once in relevé reference no. 1: ヒメコウゾ  
*Broussonetia kazinoki* H1-2・2, キツタ *Hedera rhombea* H2-1・2, ドクダミ *Houttuynia cordata* H2-+・2, ヤブニンジン *Osmorhiza aristata* H2-+, タニギキョウ *Paracarpa carnosa* var. *circaeoides* H2-+; no.2: マユミ *Euonymus sieboldianus* H1-2・1, アカネ *Rubia argyi* H2-1・2, カナムグラ *Humulus japonicus* H2-+・2, オニドコロ *Dioscorea tokoro* H1-+・2, H2-+・2, ススキ *Miscanthus sinensis* H2-+, スギナ *Equisetum arvense* H2-+, ツククサ *Commelina communis* H2-+, ヤマホトギス *Tricyrtis macropoda* H2-+.

ウメモドキやミヤコイバラなどを欠いているため、ミヤコイバラ-ウメモドキ群集との関連は遠い。さらに、本報の資料では、アオツツラフジやスイカズラなど、本調査地周辺にも生育するいくつかの種群を欠き、出現種数も少なく、より断片的な植分であることが推察される。

村上 (1986) の報告したカザグルマ群落は、出現種数が 11 種であり、本報の資料と大きな差はない。しかし、その共通種はカザグルマのみで、類似性は低い。

関東地方からこれまで報告されているマント群落などの植生単位のうち、本報の植分ともっとも類似性が高いものは、村上 (1986) が報告した、高さ 3~5 m に達するアズマネザサの密生植分であるミツバアケビ-アズマネザサ群落である。この群落は、景観や植生高は異なるが、アズマネザサやミツバアケビ、カナムグラ、アカネなど共通の種群を含み、草本第 2 層は被圧され、わずかに生育しているなど、類似点が多い。記録された植分は、カザグルマ 1 種により特徴づけられるのみで、定期的な刈り取りなどの人為的な影響により変質したミツバアケビ-アズマネザサ群落としても捉えられる。

以上のことから、今回報告したカザグルマ群落は、カザグルマが主体となるものではなく、もともと分布地、生育量ともに少ないカザグルマの生育地に、人為的な攪乱が加えられた結果生じた、断片的な植分であると言える。

なお、今後、相模原市の生育地においても資料を収集し、保土ヶ谷区の植分との比較も含め、その現状を報告する予定である。

#### 引用文献

- Braun-Blanquet, J., 1964. *Pflanzensociologie, Grundzuge der Vegetationskunde*. 865pp. Springer-Verlag, Wien/New York.
- 石田弘明・服部保・永吉照人・鈴木武・小館誓治・菊田穰・赤松弘治・山戸美智子, 1996. 三田市のカザグルマ群落に関する報告. 人と自然, (7):97-104.
- 神奈川県レッドデータ生物調査団 (編), 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川博調報 (自然科学) (7). 8 pls. +257pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 5+90+2+25pp. 箱根博覧会, 小田原.
- 村上雄秀, 1986. 林縁生低木-つる植物群落. 宮脇昭編著, 日本植生誌 7 関東, pp. 248-258. 至文堂, 東京.
- 田中徳久, 1994. 神奈川県植物群落 1. ハコネコメツツジ群落. 神奈川自然誌資料, (15):53-58.
- 田中徳久, 1996. 神奈川県植物群落 2. カワラノギク群落. 神奈川自然誌資料, (17):1-7.
- 我が国における保護上重要な植物種および植物群落に関する検討委員会種分科会編, 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320pp. 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会, 東京.
- 山口一郎, 1997. 市域の希少植物について. 相模原市立博物館研究報告第 6 集, 23-30.

(受付:1997年11月28日, 受理:1997年12月11日)